

保健学研究科博士後期課程（先端医療研究プログラム）教育の方針

教育の基本的目標

保健学研究科博士後期課程では、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に” 知の創成” に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために、「インタープロフェSSIONALワーク」を基盤として、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術等を自立して研究、開発できる教育・研究者

保健学研究科博士後期課程では、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「インタープロフェSSIONALワーク論」を基盤とした「ヘルスプロモーションの実践と確立」を据え、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ教育・研究者を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 保健学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力
- 保健学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力
- 保健学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力
- 自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力
- 様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)

保健学研究科博士後期課程は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】保健学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力

保健学における医科学の向上やヘルスプロモーションの必要性を説明できる。

保健学の課題と向き合う中で、他の専門との差異を理解して互恵的に生かし、課題を解決できる。

保健学の実践・教育・研究・人材育成において、生涯にわたって、新たな知見や解決策を社会に発信できる。

【探究力】保健学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力

保健学の専門的学識を用いて、独自の観点から課題の本質や普遍性を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

見出した本質や普遍性を、広く社会に平易な言葉で解説できる。

【コミュニケーション力】保健学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力

保健学の実践・教育・研究・人材育成において、知識や技術を他者へ明確に伝達できる。

保健学を背景とするチーム医療における役割を見だし、説明できる。

医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えた互恵的な関係を築くことができる。

【専門力】自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力

保健学の高度専門職としての知識と研究方法を説明でき、技術を利用できる。

知識、技能を深く統合できる。

新たな知見を発見でき、機器・技術等を創造できる。

【教養力】様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

グローバル化など社会の変化を説明できる。

幅広い価値観から学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)で掲げた力を修得した人材を養成するため、保健学研究科博士後期課程として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

保健学研究科博士後期課程では、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。博士論文については、中間評価会で評価を受け、最終審査・試験に合格することが求められます。博士論文の最終審査・試験では、委員3名以上(ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。)からなる審

査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員（主査）は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士後期課程（看護学高度研究コース）教育の方針

教育の基本的目標

看護学高度研究コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために、「インタープロフェSSIONALワーク」を基盤として、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術等を自立して研究、開発できる教育・研究者

看護学高度研究コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「インタープロフェSSIONALワーク論」を基盤とした「ヘルスプロモーションの実践と確立」を据え、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ教育・研究者を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 看護学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力
- 看護学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力
- 看護学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力
- 自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力
- 様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

看護学高度研究コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】看護学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力

看護学における医科学の向上やヘルスプロモーションの必要性を説明できる。

看護学の課題と向き合う中で、他の専門との差異を理解して互恵的に生かし、課題を解決できる。

看護学の実践・教育・研究・人材育成において、生涯にわたって、新たな知見や解決策を社会に発信できる。

【探究力】看護学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、頭わす探究力

看護学の専門的学識を用いて、独自の観点から課題の本質や普遍性を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

見出した本質や普遍性を、広く社会に平易な言葉で解説できる。

【コミュニケーション力】看護学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力

看護学の実践・教育・研究・人材育成において、知識や技術を他者へ明確に伝達できる。

看護学を背景とするチーム医療における役割を見だし、説明できる。

医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えた互恵的な関係を築くことができる。

【専門力】自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力

看護学の高度専門職としての知識と研究方法を説明でき、技術を利用できる。

知識、技能を深く統合できる。

新たな知見を発見でき、機器・技術等を創造できる。

【教養力】様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

グローバル化など社会の変化を説明できる。

幅広い価値観から学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、看護学高度研究コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

看護学高度研究コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療・福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。博士論文については、中間評価会で評価を受け、最終審査・試験に合格することが求められます。博士論文の最終審査・試験では、委員3名以上（ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。）からなる審

査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員（主査）は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士後期課程(放射線技術科学・先端研究コース)教育の方針

教育の基本的目標

放射線技術科学・先端研究コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために、「インタープロフェッショナルワーク」を基盤として、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術等を自立して研究、開発できる教育・研究者

放射線技術科学・先端研究コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「インタープロフェッショナルワーク論」を基盤とした「ヘルスプロモーションの実践と確立」を据え、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ教育・研究者を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力
- 放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力
- 放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力
- 自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力
- 様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

放射線技術科学・先端研究コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力

放射線技術科学における医科学の向上やヘルスプロモーションの必要性を説明できる。

放射線技術科学の課題と向き合う中で、他の専門との差異を理解して互恵的に生かし、課題を解決できる。

放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成において、生涯にわたって、新たな知見や解決策を社会に発信できる。

【探究力】放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力

放射線技術科学の専門的学識を用いて、独自の観点から課題の本質や普遍性を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

見出した本質や普遍性を、広く社会に平易な言葉で解説できる。

【コミュニケーション力】放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力

放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成において、知識や技術を他者へ明確に伝達できる。

放射線技術科学を背景とするチーム医療における役割を見だし、説明できる。

医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えた互恵的な関係を築くことができる。

【専門力】自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力

放射線技術科学の高度専門職としての知識と研究方法を説明でき、技術を利用できる。

知識、技能を深く統合できる。

新たな知見を発見でき、機器・技術等を創造できる。

【教養力】 様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

グローバル化など社会の変化を説明できる。

幅広い価値観から学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、放射線技術科学・先端研究コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

放射線技術科学・先端研究コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づ

いて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。博士論文については、中間評価会で評価を受け、最終審査・試験に合格することが求められます。博士論文の最終審査・試験では、委員3名以上（ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。）からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員（主査）は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士後期課程(臨床検査科学・先端研究コース)教育の方針

教育の基本的目標

臨床検査科学・先端研究コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために、「インタープロフェSSIONALワーク」を基盤として、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術等を自立して研究、開発できる教育・研究者

臨床検査科学・先端研究コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「インタープロフェSSIONALワーク論」を基盤とした「ヘルスプロモーションの実践と確立」を据え、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ教育・研究者を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力
- 臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力
- 臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力
- 自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力
- 様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)

臨床検査科学・先端研究コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力

臨床検査科学における医科学の向上やヘルスプロモーションの必要性を説明できる。

臨床検査科学の課題と向き合う中で、他の専門との差異を理解して互恵的に生かし、課題を解決できる。

臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成において、生涯にわたって、新たな知見や解決策を社会に発信できる。

【探究力】臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力

臨床検査科学の専門的学識を用いて、独自の観点から課題の本質や普遍性を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

見出した本質や普遍性を、広く社会に平易な言葉で解説できる。

【コミュニケーション力】臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力

臨床検査科学の実践・教育・研究・人材育成において、知識や技術を他者へ明確に伝達できる。

臨床検査科学を背景とするチーム医療における役割を見だし、説明できる。

医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えた互恵的な関係を築くことができる。

【専門力】自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力

臨床検査科学の高度専門職としての知識と研究方法を説明でき、技術を利用できる。知識、技能を深く統合できる。

新たな知見を発見でき、機器・技術等を創造できる。

【教養力】様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

グローバル化など社会の変化を説明できる。

幅広い価値観から学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、臨床検査科学・先端研究コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

臨床検査科学・先端研究コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づ

いて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。博士論文については、中間評価会で評価を受け、最終審査・試験に合格することが求められます。博士論文の最終審査・試験では、委員3名以上(ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。)からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員(主査)は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士後期課程(超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース))教育の方針

教育の基本的目標

超音波検査士育成コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

高度かつ実践的な医用超音波診断技術を習得するために、医科学を多角的な視点から問題解決に導くことができる高度専門職業人

超音波検査士育成コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「インタープロフェッショナルワーク論」を基盤とした「ヘルスプロモーションの実践と確立」を据え、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ教育・研究者を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力
- 医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力
- 医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力
- 自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力
- 様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

超音波検査士育成コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力

医用超音波診断における医科学の向上やヘルスプロモーションの必要性を説明できる。

医用超音波診断の課題と向き合う中で、他の専門との差異を理解して互恵的に生かし、課題を解決できる。

医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成において、生涯にわたって、新たな知見や解決策を社会に発信できる。

【探究力】医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力

医用超音波診断の専門的学識を用いて、独自の観点から課題の本質や普遍性を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

見出した本質や普遍性を、広く社会に平易な言葉で解説できる。

【コミュニケーション力】医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力

医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成において、知識や技術を他者へ明確に伝達できる。

医用超音波診断を背景とするチーム医療における役割を見だし、説明できる。

医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えた互恵的な関係を築くことができる。

【専門力】自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力

医用超音波診断の高度専門職としての知識と研究方法を説明でき、技術を利用できる。知識、技能を深く統合できる。

新たな知見を発見でき、機器・技術等を創造できる。

【教養力】様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

グローバル化など社会の変化を説明できる。

幅広い価値観から学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、超音波検査士育成コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

超音波検査士育成コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティーの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行い

ます。博士論文については、中間評価会で評価を受け、最終審査・試験に合格することが求められます。博士論文の最終審査・試験では、委員3名以上(ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。)からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員(主査)は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士後期課程(ゲノム医療・医科学研究コース)教育の方針

教育の基本的目標

ゲノム医療・医科学研究コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために、「インタープロフェSSIONALワーク」を基盤として、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術等を自立して研究、開発できる教育・研究者

ゲノム医療・医科学研究コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「インタープロフェSSIONALワーク論」を基盤とした「ヘルスプロモーションの実践と確立」を据え、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ教育・研究者を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力
- ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、顕わす探究力
- ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力
- 自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力
- 様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)

ゲノム医療・医科学研究コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を活かし、医科学の向上やヘルスプロモーションのために新たな知見や解決策を社会に示す実践力

ゲノム医療における医科学の向上やヘルスプロモーションの必要性を説明できる。

ゲノム医療の課題と向き合う中で、他の専門との差異を理解して互恵的に生かし、課題を解決できる。

ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成において、生涯にわたって、新たな知見や解決策を社会に発信できる。

【探究力】ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を独創的に見極め、頭わず探究力

ゲノム医療の専門的学識を用いて、独自の観点から課題の本質や普遍性を発見し、自ら解決方法を見いだせる。見出した本質や普遍性を、広く社会に平易な言葉で解説できる。

【コミュニケーション力】ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成においてリーダーシップを発揮できるコミュニケーション力

ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成において、知識や技術を他者へ明確に伝達できる。

ゲノム医療を背景とするチーム医療における役割を見だし、説明できる。

医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えた互恵的な関係を築くことができる。

【専門力】自立した研究能力を持ち、新たな知見を発見し、機器・技術等を創造できる専門力

ゲノム医療の高度専門職としての知識と研究方法を説明でき、技術を利用できる。

知識、技能を深く統合できる。

新たな知見を発見でき、機器・技術等を創造できる。

【教養力】様々な価値観に対する多角的視点と柔軟な発想を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応でき、自らの智をたくましくする教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

グローバル化など社会の変化を説明できる。

幅広い価値観から学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)で掲げた力を修得した人材を養成するため、ゲノム医療・医科学研究コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

ゲノム医療・医科学研究コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づ

いて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。博士論文については、中間評価会で評価を受け、最終審査・試験に合格することが求められます。博士論文の最終審査・試験では、委員3名以上（ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。）からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員（主査）は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

保健学研究科博士後期課程は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等を自立して研究できる能力をもつ研究者や教育者を養成するうえで求める人物像

深く統合できる専門力、研究の基礎能力とともに人間や物事の本質を見抜く感性<教養力>、探究心を持ち、周囲の様々なステークホルダーとの議論<コミュニケーション力>を通して課題を解決に導く実践力、高い倫理観を持ちながら論理的・複眼的探究力で、ヘルスプロモーション科学の確立を進められる可能性を持つ人材、幅広い学びから自らの知を深め将来保健・医療チームをリードできる人材を国内外から広く求めます。

求める力

【実践力】保健学の実践・教育・研究・人材育成における課題を定め、差異を理解し、課題解決に導く実践力

保健学の実践・教育・研究・人材育成におけるより大きな課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動することができる。

【探究力】保健学の実践・教育・研究・人材育成における課題の本質を見極める探究力
多面的な検討により明らかになった保健学の課題に、様々な観点から専門力を用いて、その本質に迫ることができる。

課題の本質を、他の専門領域の人にも理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】様々なステークホルダーと議論や協働ができるコミュニケーション力

多様な文化や価値観を認め合い、相互に高め合う円滑なコミュニケーションができる。
様々なステークホルダーと互恵的な関係を目指した議論ができる。

【専門力】専門領域の知識、技能を統合できる専門力

専門領域に、保健・医療および関連分野の知識・技能と研究基礎能力を統合し、活用することができる。

【教養力】幅広く深い学びから智を身につける力

高い倫理観をもって、自らの行為や情報・データを見つめることができる。
国内外における社会の変化を見つめ、多角的な視点をもって物事の価値を判断できる。
より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

以下、各コースの求める力を下述。

[看護学高度研究コース]

【実践力】

看護・保健学の実践・教育・研究・人材育成におけるより大きな課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動することができる。

【探究力】

多面的な検討により明らかになった看護・保健学の課題に、様々な観点から専門力を用いて、その本質に迫ることができる。

課題の本質を、他の専門領域の人にも理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

多様な文化や価値観を認め合い、相互に高め合う円滑なコミュニケーションができる。

様々なステークホルダーと互恵的な関係を目指した議論ができる。

英語力で他者との議論に対応できる。

【専門力】

専門領域に、看護・保健学および関連分野の知識・技能と研究基礎能力を統合し、活用することができる。

【教養力】

高い倫理観をもって、自らの行為や情報・データを見つめることができる。

国内外における社会の変化を見つめ、多角的な視点をもって物事の価値を判断できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

[放射線技術科学・先端研究コース]

【実践力】

放射線技術科学の実践・教育・研究・人材育成におけるより大きな課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動することができる。

【探究力】

多面的な検討により明らかになった放射線技術科学の課題に、様々な観点から専門力を用いて、その本質に迫ることができる。

課題の本質を、他の専門領域の人にも理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

多様な文化や価値観を認め合い、相互に高め合う円滑なコミュニケーションができる。

様々なステークホルダーと互恵的な関係を目指した議論ができる。

英語力で他者との議論に対応できる。

【専門力】

専門領域に、放射線技術科学および関連分野の知識・技能と研究基礎能力を統合し、活用することができる。

【教養力】

高い倫理観をもって、自らの行為や情報・データを見つめることができる。

国内外における社会の変化を見つめ、多角的な視点をもって物事の価値を判断できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

[臨床検査科学・先端研究コース]

【実践力】

検査技術科学の実践・教育・研究・人材育成におけるより大きな課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動することができる。

【探究力】

多面的な検討により明らかになった検査技術科学の課題に、様々な観点から専門力を用いて、その本質に迫ることができる。

課題の本質を、他の専門領域の人にも理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

多様な文化や価値観を認め合い、相互に高め合う円滑なコミュニケーションができる。

様々なステークホルダーと互恵的な関係を目指した議論ができる。

英語力で他者との議論に対応できる。

【専門力】

専門領域に、検査技術科学および関連分野の知識・技能と研究基礎能力を統合し、活用することができる。

【教養力】

高い倫理観をもって、自らの行為や情報・データを見つめることができる。

国内外における社会の変化を見つめ、多角的な視点をもって物事の価値を判断できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

[超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)]

【実践力】

医用超音波診断の実践・教育・研究・人材育成におけるより大きな課題と向き合う中

で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動することができる。

【探究力】

多面的な検討により明らかになった医用超音波診断における課題に、様々な観点から専門力を用いて、その本質に迫ることができる。

【コミュニケーション力】

多様な文化や価値観を認め合い、相互に高め合う円滑なコミュニケーションができる。
様々なステークホルダーと互恵的な関係を目指した議論ができる。

【専門力】

専門領域に、検査技術科学および関連分野の知識・技能と研究基礎能力を統合し、活用することができる。

超音波計測における基本的な知識・技術を有している。

超音波計測の検査ルーチンをこなすことができる。

修学に必要な英語力をもっている。

【教養力】

高い倫理観をもって、自らの行為や情報・データを見つめることができる。

国内外における社会の変化を見つめ、多角的な視点をもって物事の価値を判断できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

[ゲノム医療・医科学研究コース]

【実践力】

ゲノム医療の実践・教育・研究・人材育成におけるより大きな課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動することができる。

【探究力】

多面的な検討により明らかになったゲノム医療における課題に、様々な観点から専門力を用いて、その本質に迫ることができる。

課題の本質を、他の専門領域の人にも理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

多様な文化や価値観を認め合い、相互に高め合う円滑なコミュニケーションができる
様々なステークホルダーと互恵的な関係を目指した議論ができる。

【専門力】

専門領域に、検査技術科学および関連分野の知識・技能と研究基礎能力を統合し、活用することができる。

遺伝子に関連する資格を有している、あるいはそれに相当する能力を有している

修学に必要な英語力をもっている。

【教養力】

高い倫理観をもって、自らの行為や情報・データを見つめることができる。

国内外における社会の変化を見つめ、多角的な視点をもって物事の価値を判断できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

保健学研究科博士後期課程の選抜方針

幅広く多様な人材を確保するため、一般入試、社会人入試、外国人留学生特別入試、進学者選考、O-NECUS プログラム修了者外国人留学生特別入試といった複数の入試を実施します。

保健学研究科博士後期課程の選抜方法

筆記試験、口述試験(面接)、書類審査などによる試験のいずれかを、あるいは組み合わせで行い、本大学院での学修に足る語学力や論文執筆能力など様々な要素を測ります。

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

(1) 一般入試 広く大学院進学希望者を対象とした入試で、書類審査および学力試験等(筆記試験および口述試験)を課しています。書類審査では、受験時までに取得した専門性、研究業績、キャリアプランなどについて複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプラン、英語力や論文執筆能力などについて複数の教員が総合的に評価します。

(2) 社会人入試 出願時に職を有し、入学後もその身分を継続する者を対象とした入試で、書類審査および学力試験等(筆記試験および口述試験)を課しています。書類審査では、受験時までに習得した専門性、研究業績、キャリアプランなどについて、複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や社会人としてのキャリアプラン、英語力や論文執筆能力などについて複数の教員が総合的に評価します。

(3) 外国人留学生特別入試 日本の国籍を有しない者を対象とした入試で、書類審査と口述試験を課しています。書類審査と口述試験では、受験時までに習得した語学力や専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応状況などについて複数の教員が多面的に評価します。

(4) 進学者選考 岡山大学大学院修士課程又は博士前期課程を入学試験時の翌年3月修了見込みの者を対象とした選考で、書類審査と口述試験を課しています。書類審査および口述試験では、博士前期課程で行った研究内容、キャリアプラン、専門的知識、英語力などについて複数の教員が総合的に評価します。

(5) O-NECUS プログラム修了者外国人留学生特別入試 O-NECUS プログラム(岡山大学-中国東北部大学院留学生交流プログラム)修了者を対象とした入試で、書類審査を課しています。書類審査では、受験時までに習得した語学力や専門性、O-NECUS 留学期間中の研究内容、就学の前提となる経済状態などについて複数の教員が多面的に確認をします。

入学前に学習しておくことが期待される内容

英語力(とくに読解力)の向上を目指してください。

統計学、数理・データサイエンス等情報の収集・処理、データ解析に必要な知識を深めておくことが期待されます。事象や課題に対する探究をすすめ、科学的思考能力をさらに高めておくことが必要です。